

(別紙4(1))

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0370900532		
法人名	特定非営利活動法人 ケアセンター いこい		
事業所名	認知症高齢者グループホーム いこいの宿		
所在地	岩手県一関市末広1丁目9-13		
自己評価作成日	平成25年10月12日	評価結果市町村受理日	平成26年2月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/03/index.php?act=on_kouhyou_detail_2012_022_ki_hon=true&ki_gyosyoCd=0370900532-00&PrefCd=03&Versi_onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団 評価公表・研修グループ
所在地	岩手県盛岡市本町通三丁目19番1号
訪問調査日	平成25年10月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一ノ関駅より徒歩15分の磐井川堤防のさくらに面しており四季折々の花が眺められ穏やかに生活できる場所にあります。生活面では自分らしく生活できるよう、出来ない部分の援助を行い日常生活の中で機能等の動作訓練を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームいこいの宿」は駅に近く、市内を流れる磐井川堤防の桜並木に面した閑静な住宅地にあり、堤防沿いには桜のほか四季折々の花々が咲いていて、利用者が季節感を満喫しながら居心地よく過ごせる環境にある。管理者は日頃から職員の意見や要望をよく聞いており、職員は利用者に笑顔でゆっくりと優しく寄り添っていて、管理者と職員、職員と利用者の関係は、非常に良好で、コミュニケーションがよく取られている。利用者は、和気あいあいとした明るい雰囲気の中で暮らしている。また、事業所として民区に加入し、第9班の副班長として、地域行事である世代間交流等にも積極的に参加しているほか、避難訓練、お花見、いも煮会、敬老会といった事業所の様々な行事には、地域住民の協力や参加をいただいております、地域社会とのつながりも大切にしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を施設内に掲示し1/月職員会議にて確認・共有しながら日々の介護指針と常に見れるような場所にし環境を整えている。	法人として社是、運営理念及びケア理念を作成し、居間兼事務室に掲示しているほか、事業所独自の取組みとして「平成25年度の目標」を定め、月1回開催の職員会議において、職員各自が常に理念の精神を自覚して取り組むよう確認・共有してよりよいケアに活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域に溶け込むため民区の一員として副班長を受けている。世代間交流等の民区行事にも利用者・職員も参加させて頂き民区の方々と交流を図っている。	事業所は、民区に加入し、第9班の副班長として、幼稚園児から老人まで集い、昔の遊びを通して、世代間交流等の地域行事にも積極的に参加しているほか、お花見やいも煮会、敬老会といった事業所の諸行事にも声かけをして来ていただき、地域社会との交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設の行事であるお花見・敬老会に地域の方々と招待し地域の方々と交流を図っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1度実施し、行政・民区区長・利用者家族・法人職員にて構成されている。施設からの報告の後は自由に討議し、議事録は誰でも閲覧できるように施設内に設置し、職員会議で情報の共有を行い出された意見等は利用者のサービス提供に活かしている。	利用者、家族代表、区長、包括支援センター職員、法人代表、施設事業所長、管理者をメンバーとする運営推進会議を隔月開催し、事業所の取組み状況や行事等を報告・話し合い、要望や意見をいただいている。その内容については、職員会議で共有し、利用者のサービス向上に活かしている。	運営について各方面からの意見を幅広く聞くためにも、委員構成員の検討に期待したい。民生児童委員、消防職員、警察官など地域の各方面の情報を得られるよう、随時ゲスト的な参加協力も含め検討されることを望みたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き運営について助言・情報等を頂いている。	運営推進会議には、必ず包括支援センターの職員が出席しており、事業所のケアサービスの取組み状況等を伝えるとともに、インフルエンザへの対応等適宜、色々な助言や情報を頂いている。また、介護保険制度等については、法人としてセンター及び市の担当課と個別に相談・確認している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は個々に利用者の行動を把握し否定せず行動を共にして安全・安心に努めている。また、契約書にも記載し、入所時は家族にもその旨を話している。	法人として「身体拘束しないケアマニュアル」を作成、全職員で共有しているほか、県や市主催の身体拘束とその弊害に関する研修会にも職員を出席させており、研修内容については職員会議で発表等する形で全職員が共有・確認しながら、見守りや連携プレーに徹したケアに心掛けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業本部より情報が各施設に流れて来るので職員が共有すると共に理解し日々のケアに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護等の必要な方は現在はいないが勉強会等を開催する。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	本人・家族に対して契約時に説明を行い理解して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議時は本人・家族にも参加して頂いている。面会時等には近況を話し意見・要望が遠慮なく話せるような環境作りを行っている。	家族会はないが、意見や要望等について、家族からは面会時や通院時、運営推進会議の際に、利用者からは日常の会話の中で把握しており、利用者から出された食事の際の座席要望については速やかに対応している。また、諸行事やその様子については、写真を添える等して家族に送っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職場の朝夕のミーティング・職員会議で出された問題は各事業所の管理者が集まるリーダー会議等にて協議される。	事業所長及び管理者は毎月開催される職員会議や、朝・夕のミーティングを通して、職員の意見・提案・気づきや、アイデアを聴取・把握し、事業所として対応可能なものは速やかに行い、検討を要するものは所長を通して法人のリーダー会議等で協議し、運営に取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得等、仕事に対して各自が向上心を持って働けるように本人の意向も踏まえて対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修・資格獲得について参加するようにしている。後日、研修内容については職員会議にて内容を報告し共有を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の定例会・ブロック研修会に参加し勉強・情報交換を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の調査で本人の思いや要望・不安に思っている事などを傾聴し確認し信頼関係が築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前前調査にて本人・家族の思いを確認しニーズにあった援助が出来るように対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前に得た情報を職員間で共有すると共に居宅ケアマネにも情報を頂く等行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事は手伝って頂く事で生き生きと生活して頂いている。(衣類たたみ・食器拭き・テーブル拭き等)		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人のこれまでの生活歴を共有し安心して生活でき信頼関係が築けるように心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人・親戚等の面会があり関わりを継続できるように対応している。また、本人が希望される場合なじみの店への外出等職員が同行している。	入居時に本人・家族から聞き取り等し、把握しているほか、常日頃、利用者の思いや希望を聞き、それらに沿って美容院や買物等に付き添ったり、かかってくる電話を取り次いだりしながら、馴染みの人や場所とのつながりが継続出来るよう支援している。また、帰宅や墓参り希望については、その都度、家族に伝えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活空間の場である居間にて皆で出来ること・やりたいことを利用者同士で行っている。また、他利用者さんが孤立しないように見守りを職員が行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方についても必要に応じて相談の都度、のっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員が入所者さんとコミュニケーションが取れるように心がけている。また、意思疎通が難しい入所者に対しては表情を読み取るようにしている。	職員は利用者一人ひとりの思いや意向について、日常の会話の中や、食事・入浴、掃除といった際の寄り添いの中で掴むようにしている。また、会話では把握困難な利用者数名の方については、日々の仕草や表情から汲み取るよう心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの聞き取り・本人との会話からこれまでの経過を情報として把握し身の回りの生活用品も使い慣れた物を使用して頂けるようにしている。		
25		一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ミーティングにて日々の過ごし方(バイタル・排泄・食事・状態)等について把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の状態を通院時家族にお話し、主治医からのお話・家族の意向を踏まえケアプランに反映させている。	入居時に、本人・家族と話し合い、利用者本位の介護計画を作成している。見直しは、利用者の日々の状態や主治医からの報告・助言を基に、利用者・家族と話し合いながら行っており、変化が見られた利用者についてはその都度、大きく変化の無い場合は、状況に応じ、3ヶ月から6ヶ月に一回、更新または見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、朝夕のミーティングにて利用者の情報を共有している。内容を基に介護計画に反映させるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて施設間で連携を図り、対応している。(本部・老健・特養)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域での行事等がないので当施設を会場にして交流(夏祭り・盆踊り)等を行いたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前に本人・家族より意向を確認し、かかりつけ医には職員も同行受診している。また、緊急時対応可能な協力医療機関との連携も図れている。	利用者全員が入居前からの「かかりつけ医」に通っている。病院受診結果については、家族が同行した時は家族から確認し、職員が通院記録を作成している。職員が同行した時は、同行職員が通院記録を作成のうえ、必要に応じ、家族に伝え、受診結果情報を共有しながら適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	何かあれば法人全体でのバックアップ体制が整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の面会・援助(洗濯)・家族との連携・病院と連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設として看護婦の配置はない為、医療行為ができない事もあり必要に応じて特養・老健等の申込み家族の意向を考慮し申込みを行っている。家族が望むのであれば終末期までの援助を行う事は家族には入所時に伝えている。	法人として「終末期看取支援」を作成しており、入居時に、事業所として対応可能なことを本人や家族に説明している。また、日頃から医者と連絡を密にし、非常時等には、直ちに病院に連絡し、適切な指導を仰ぐ等、速やかに重度化や看取り支援が出来る体制を構築している。これまでに、4名の方の看取りを行っており、今後も重度化の対応や看取りの対応をすることとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを作成している。また、定期的に法人として職員対象にAED・救急救命に付いて講習会も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の実施を継続して行うと共にマニュアルの整備・法人全体と連携を図り、非常時も無線で本部と連絡が取れるようになっている。	災害対応マニュアルを作成し、居間兼事務室に「避難路と災害時連絡系統図」を掲示して全職員が共有している。避難訓練は地域住民の協力を得て昼間1回、夜間想定1回の年2回実施しているほか、消防署と警備会社にボタン1つで連絡が取れるよう体制を整えている。また、備蓄品は法人本部で準備している。	

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人・家族の了解を得て愛称で呼ぶ事もあるが尊厳とプライバシーを傷つけないような言葉がけに配慮している。	利用者について以前は家族の了解を得て、愛称で呼ぶこともあったが、今は全員「さん」付けて呼んでおり、ケア理念に沿って、利用者一人ひとりの人格を尊重し、思いやりの心を持って、利用者の誇りやプライバシーに配慮しながら利用者が安心する話し方で接している。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入所者との信頼関係を築く事で本人が素直に表現出来るような雰囲気作り心がけている。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々、利用者との会話の中からやりたいことを聞き、お絵かき・かるた・トランプ等を本人の希望に合わせて対応している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	床屋さんは定期的に来て頂いている。女性の方で美容室に行きたい方は近所の美容室に出かけている。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状況を踏まえ、買い物・調理の下準備・テーブル拭き・下膳等を自ら手伝って頂いている。献立についても利用者の嗜好等を確認し献立に反映している。また、嗜好が異なる場合は代替の品を提供して食事が楽しめる支援を行っている。	食材の買物や、食事の準備・後片付け等を利用者の「できること」に応じて、職員と一緒にやっている。献立表は利用者一人ひとりの好み等に配慮しながら、1週間毎に、職員が作成しているが、時には、もち料理、いもの子汁といった旬の食材を取り入れ、利用者が楽しみながら食事が出来るよう心配りがなされている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員が入所者の日々の食事量を把握し、カロリー制限のある方にも対応している。また摂取量が少ない方は主治医に相談し必要に応じ高カロリー栄養食を提供している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、口腔ケアを本人の有する能力に応じて(見守り・声かけ・一部介助・介助)行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者個々の排泄の間隔に合わせた援助を行っている。	毎日記入している排泄チェック表を基に、利用者一人ひとりの排泄パターンやサインを職員全員で把握し、利用者の生活リズムに沿って羞恥心や不安感に配慮しながら、さりげなく支援している。ほとんどの利用者は自立しているが、不安のある方については、周囲に気付かれないよう等配慮し誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事面での対応と、毎日の乳製品の提供、水分摂取で便秘を解消出来るように取り組んでいる。また個別に主治医に相談して整腸剤・下剤で対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の制限はないがバイタルチェックを行い状態に合わせた入浴方法を個別に行っている。	基本的には、週2回曜日を決めて2班に分けたかたちで、入浴しているが、利用者の生活習慣や希望、バイタルチェックの状況に配慮しながら、弾力的に対応しており、利用者が安心して楽しんで入浴できるよう、気配りしながら支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の常態に合わせて無理ないように休息が必要な方は休んで頂く。就寝についてもその方に合わせて就寝介助を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員一人一人が個々の処方箋を確認し服薬内容・副作用等を把握し、個別に名前を付け服薬管理を行い、服薬提供・介助・確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ・掃除等その人の能力に応じて援助を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望を取り入れて自由に出かけられるよう支援している。(買い物・ドライブ・散歩等)	利用者全員で月1回、ポタン園・アジサイ園・あやめ祭り、紅葉見物等にドライブしているほか、お花見や、敬老会に参加したりしている。また、利用者の希望に沿って衣服の買物や美容院等にも付き添ったりしながら、利用者のこれまでの生活が継続できるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金を本人の能力に応じて持っている方もいます。自分で管理出来ない方は施設にて個別台帳にて管理を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は本人の希望に応じて対応している。手紙の代読・代筆等も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関外にはベンチを設置し日光浴ができる。共用スペース(食堂兼居間)で生活することが多く台所からの匂い・調理する音が聞こえることで家庭的な雰囲気の中で生活出来ている。またテーブル等に季節の花を飾るなどしている。	既存の住宅を増改築した事業所で、共用スペースは比較的狭いが、安心して移動できるよう手すりも設置されている。また、廊下には様々な行事の際の写真が掲示されており、テーブルには四季折々の花が飾られていて、利用者が落ち着いた雰囲気の中で安心して過ごせるよう、行き届いた配慮がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースの広さに余裕がなく各自の椅子で過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みの物を持参して頂く事で安心して生活が継続出来るように環境作りを行っている。	居室にはベッド、扇風機、ストーブが備え付けられているが、使い慣れた馴染みの物等の持ち込みは自由で、整理ダンス、仏壇、位牌、テレビや椅子を持ってきている利用者もおり、利用者の意向に沿って、(利用者が)今までの暮らしの延長として居心地よく暮らせるよう、気配りがなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーで廊下にも手摺りの設置を行い居室・トイレ等にも名札・目印を貼って入所者さんが気づくようにしている。		